

## 佃幼稚園年度末学校評価自己点検・自己評価

### 本年度重点をおいた評価項目

(A : 十分に出来ている B : 出来ている C : 取り組んでいるが成果が十分でない D : 取り組みが不十分である)

評価項目	自己評価	結果と分析
教育課程・指導 教育要領の精神を踏まえ、園の方針に従い、指導計画・保育計画を作成する。	<b>B</b>	年度当初に年間の指導計画を学年で確認し合い、学期ごとに振り返りを行い、改善をしてきた。そうすることによって、月案や日案が見通しをもって作成できた。しかし、学年での話し合いはもてたが、全体で共有することができていない。
教師としての資質や能力、良識、適正 専門家としての能力やマナーを身に着け、常に意識向上する。	<b>A</b>	本を読んだり、園外研修へ積極的に参加したりと個々で意識をもって、日々生活をしてきた。また、園内で学んできたことを教職員内で共通理解したり、新しい試みや取り組みを取り入れたりをしてきた。
組織の一員としての意識・在り方 提出物や公共物の始末など意識をもって行える。園全体のことにもしっかり配りができる。	<b>B</b>	学年ごとや個人での提出物の確認は意識をもって行ってきた。しかし、園全体の心配りは難しく、把握できていないところも多々あった。互いに声を掛け合ったり、統一したりしていき、より意識をもって行えるようにしていきたい。
幼児への対応・環境構成の工夫 幼児のみとりと理解を深め、日々の保育へ生かす。また、よりよい保育環境の工夫を行う。	<b>A</b>	どの教師も子どものことを考え、発達に即した保育環境を整えるよう意識してきた。目の前の子どもたちの姿を大切に、研修で学んだことを取り入れ工夫したり、他の教師からのアドバイスをすぐに生かしたりするなど、日々努力してきた。
保育の振り返り・教職員間の共通理解 教職員間で日頃の保育を振り返ったり、子どもの姿を共通理解し合ったりする。	<b>A</b>	学年ごとで日々、反省と指針を行うようにし、職員会議や週案を確認する時間に教職員全体で共通理解できるようにしてきた。また、子どもの姿や保育の仕方を話し合うことで、個々の気付きや資質向上へとつながった。しかし、まだまだ学年での話し合いがほとんどであるので、もう少し全体での共有ができるようになるとよい。

### 次年度への改善点

- ・チーム保育として、指導計画案を始め、教員間での情報交換や相談などを行うようにしているが、時間的な制約もあり、全体会ではなく学年ごとで行う事も多い。  
 その為、全体で共通理解できていないことがあったり、フォローが十分でない事も懸念された。
- ・それぞれ保護者との連絡を密にとる事も重要だが、教師間で十分な時間を共有する必要がある。  
 また、どうしても全員が参加する事は困難であるので、伝達方法などについても、時間をかけずに効果的な方法を考慮する。